

第1回「京都府茶業振興計画」策定に係る検討委員会 次第

日時：令和6年10月4日（金）13:30～16:00

場所：宇治茶会館 大ホール（オンライン併用）

1 開会あいさつ

2 議 事

（1）京都府茶業振興計画の策定趣旨と検討スケジュールについて

（2）京都府茶業の現状について

（3）課題と対応施策について

（4）今回の論点について（意見交換）

3 閉 会

【配布資料】

資料1 出席者名簿

資料2 配席表

資料3 委員名簿

資料4 検討委員会の運営について

資料5 茶業振興計画の策定趣旨と検討スケジュールについて

資料6 京都府茶業の現状について

資料7 課題と対応施策について

資料8 今回の論点について

第 1 回「京都府茶業振興計画」策定に係る検討委員会 出席者名簿

日時：令和 6 年 10 月 4 日（金）13：30～16：00

場所：宇治茶会館 大ホール（オンライン併用）

【検討委員】

氏名	所属・役職	備考
藤井 孝夫	京都先端科学大学バイオ環境学部食農学科 特任教授	座長
物部 真奈美	アイング総合研究所 研究所長	
田中 良典	京都料理芽生会 副会長	
田中 大貴	D-matcha 株式会社 代表取締役	WEB 出席
堀井 長太郎	公益社団法人京都府茶業会議所 会頭	
吉田 利一	京都府茶生産協議会 会長	
森下 康弘	京都府茶協同組合 理事長	

【関係団体等】

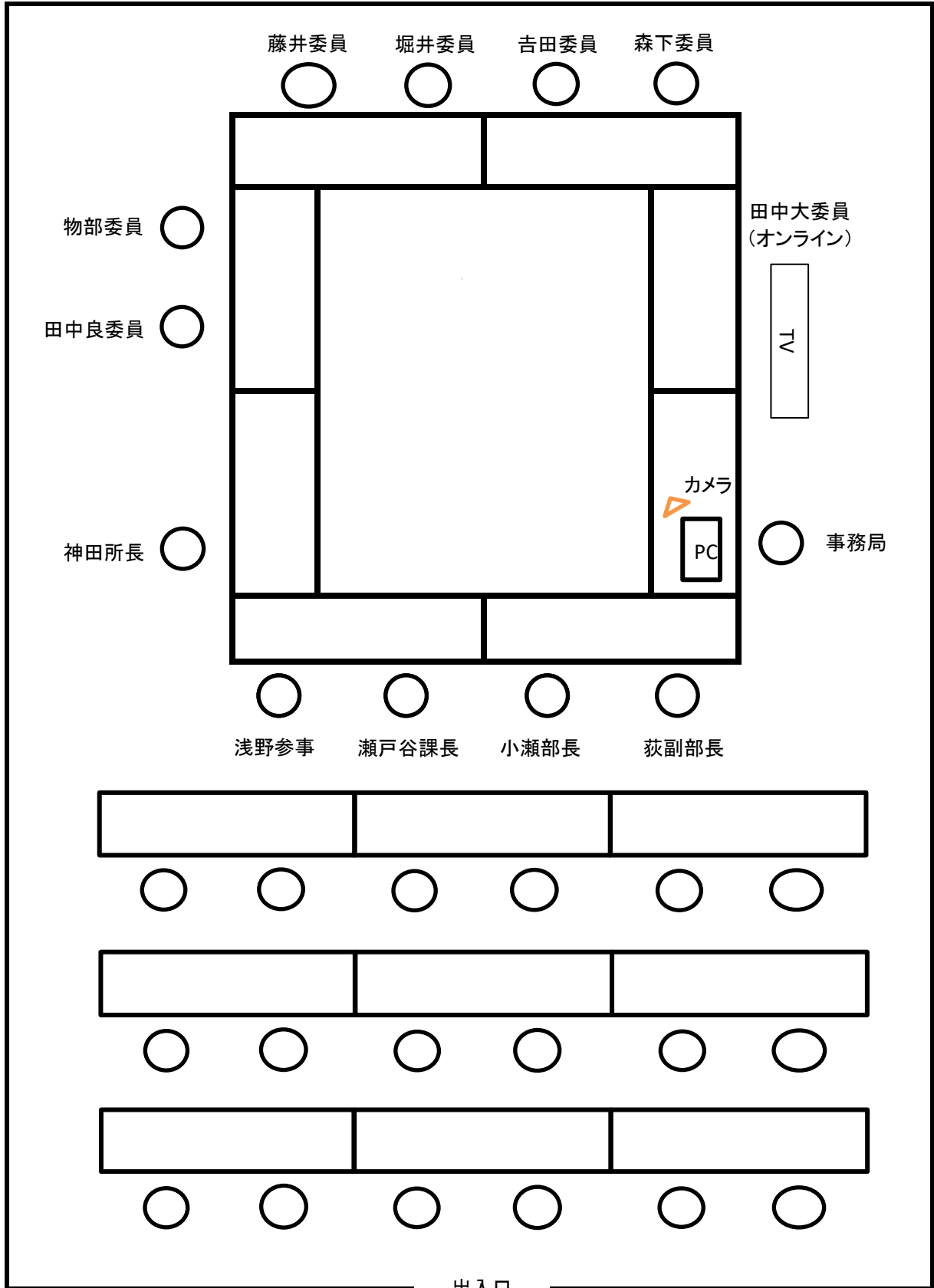
氏名	所属・役職	備考
原田 和也	公益社団法人京都府茶業会議所 参事	
深町 一憲	公益社団法人京都府茶業会議所 主幹	
地寄 誠	京都府茶生産協議会 参与	
仁木 大樹	京都府茶協同組合 事務局長	
岡本 卓也	京都府茶協同組合 事業課 次長	
豊田 博之	全農京都府本部 農畜産部 次長	
豊田 孝博	全農京都府本部 農畜産部 茶業市場課 係長	
立石 克己	JA 京都やましろ 茶業部 加工販売課 係長	WEB 出席
澤田 誠	JA 京都にのくに 農業振興課 課長	WEB 出席
田中 準	JA 京都にのくに 農業振興課 主任	WEB 出席

【事務局（京都府）】

氏名	所属・役職	備考
小瀬 康行	農林水産部 部長	
荻 安彦	農林水産部 副部長	
瀬戸谷 隆治	農林水産部 農産課 課長	
浅野 智士	農林水産部 農産課 参事	
神田 真帆	農林水産技術センター 農林センター 茶業研究所 所長	
大串 卓史	農林水産技術センター 農林センター 茶業研究所 総括	
馬場 奈央登	農林水産部 農産課 宇治茶・特産振興係 課長補佐兼係長	
西上 亜紀	農林水産部 農産課 宇治茶・特産振興係 副主査	
徳田 遼祐	農林水産部 農産課 宇治茶・特産振興係 技師	

第1回「京都府茶業振興計画」策定に係る検討委員会 配席図

日時: 令和6年10月4日(金)13:30~16:00
場所: 宇治茶会館 大ホール(オンライン併用)



京都府茶業振興計画策定に係る検討委員名簿

分野	氏名	所属・役職
宇治茶文化	藤井 孝夫	京都先端科学大学バイオ環境学部食農学科 特任教授
生産技術	物部 真奈美	アイング総合研究所 研究所長
和食文化	田中 良典	京都料理芽生会 副会長
広報・ブランディング	田中 大貴	D-matcha 株式会社 代表取締役
茶業団体	堀井 長太郎	公益社団法人京都府茶業会議所 会頭
	吉田 利一	京都府茶生産協議会 会長
	森下 康弘	京都府茶協同組合 理事長

「京都府茶業振興計画」策定に係る検討委員会の運営について

1 委員会の招集及び議事の運営

委員会は農林水産部長が招集し、座長は委員会の議事を運営する。

2 議事内容の公表

発言者名を記載しない議事要旨を、会議資料とともに、委員会終了後に府ホームページにて公表する。

会議資料は原則として公開する。ただし、特段の理由があると農林水産部長が認めた場合には、会議資料の全部又は一部を非公開とすることができる。

3 その他

- (1) 農林水産部長は、必要に応じて、委員以外の有識者等に参考人として出席を求めることができる。
- (2) 農林水産部長は、必要に応じて、この運営の見直しを行うことができる。

「京都府茶業振興計画」の策定趣旨と検討スケジュールについて

京都府における今後の茶業振興の基本的な方向や取組内容を示し、茶業者、関係機関・団体、府民を含めた多様な主体の共通指針となる「京都府茶業振興計画」について、下記のとおり策定を行う。

記

1 策定の趣旨

収益性の高い魅力ある茶業の実現と担い手の確保を目指し、宇治茶の持つ高いブランド力をさらに発展させるとともに、スマート技術の進展や海外を含めた消費者ニーズの多様化を的確に捉え、将来を見据えた生産戦略、ブランド化戦略などを展開する必要がある。

そこで、現行の「京都府総合計画」及び「京都府農林水産ビジョン」のうち、茶業振興に関する取組を具体化する個別計画として「京都府茶業振興計画」を策定する。

2 検討体制

茶業関係者に加え、新技術開発、ブランディング、海外販路開拓、文化振興などの他業界の意見を採り入れるため有識者による検討委員会を開催し、幅広い視点で検討する。

3 計画期間

5年間（令和7年度から令和11年度まで）

4 検討スケジュール（予定）

令和6年 10月 第1回検討委員会（課題と対応施策検討）

11月 中間案作成、意見聴取

12月 京都府議会12月定例会 委員会へ報告（中間案）、パブリックコメント実施

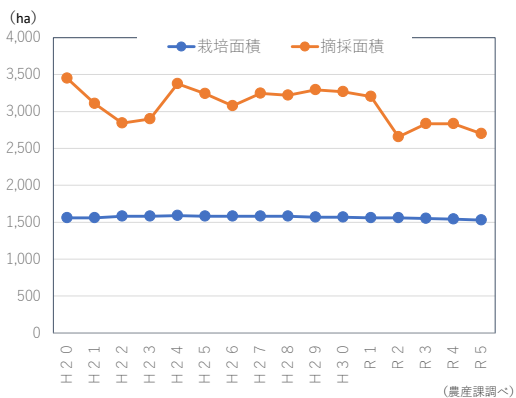
令和7年 1月 第2回検討委員会（最終案について）

3月 京都府議会2月定例会 委員会へ報告（最終案）

京都府茶業の現状について

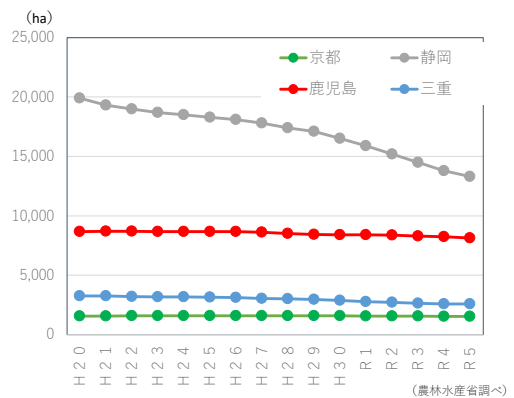
生産1 茶園面積

京都府における茶栽培面積と摘採面積



- 茶園面積はほぼ横ばいで推移しているが、品質重視のため二番茶や番茶などの摘採が減少し、摘採面積は減少傾向

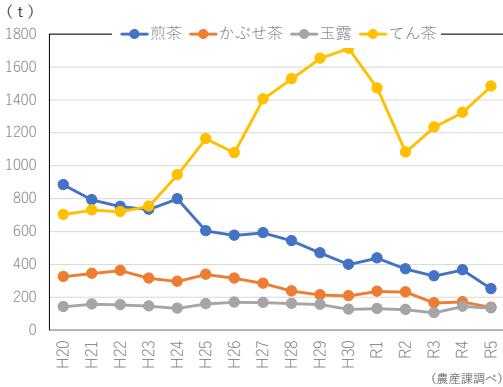
全国（上位4県）の茶栽培面積



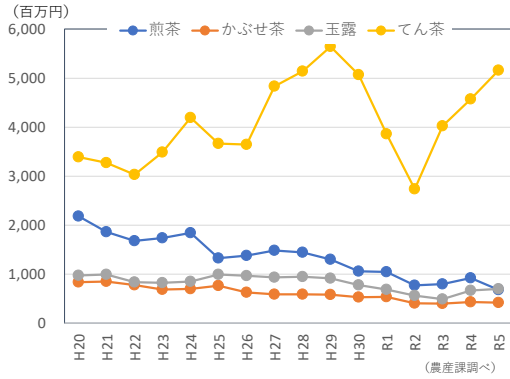
- 全国の茶園面積では減少傾向であり、特に静岡県の面積の減少が著しい

生産2 荒茶生産量・生産金額

各茶種の荒茶生産量



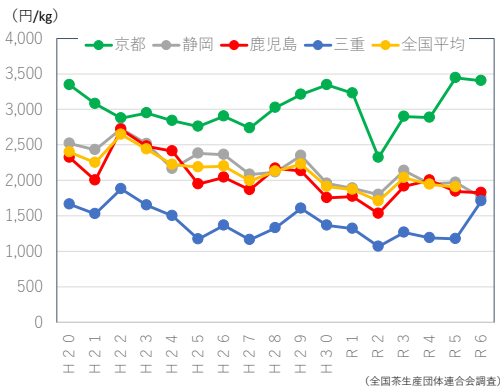
各茶種の荒茶生産金額



- 煎茶は、てん茶への転換やリーフ茶需要の減少から、生産量・金額とも減少。かぶせ茶は、煎茶と同様に微減。
- 玉露は、生産量はほぼ横ばいで推移しているが、単価の低下等により生産金額は微減。
- てん茶は、令和2年のコロナ禍により生産量が激減したが、近年の国内外における抹茶需要の高まりから、生産量及び生産金額は増加。

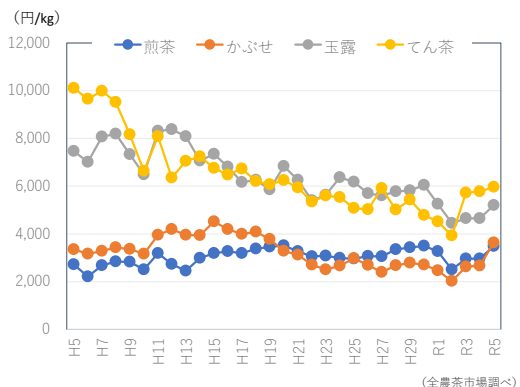
生産3 一番茶単価

全国の茶産地の一番茶（煎茶）単価



- リーフ茶需要の低迷により、全国的に一番茶（煎茶）単価は年々減少傾向だが、一方、京都府は3,000円前後の高単価を維持

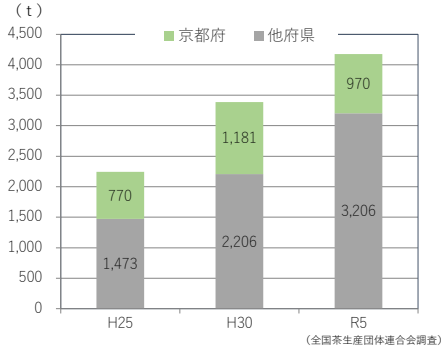
京都茶市場における各茶種一番茶単価



- 京都府における各茶種の単価については、てん茶及び玉露がはさみ摘みや直掛け被覆に移行していることから低下しており、煎茶及びかぶせ茶はほぼ横ばいで維持

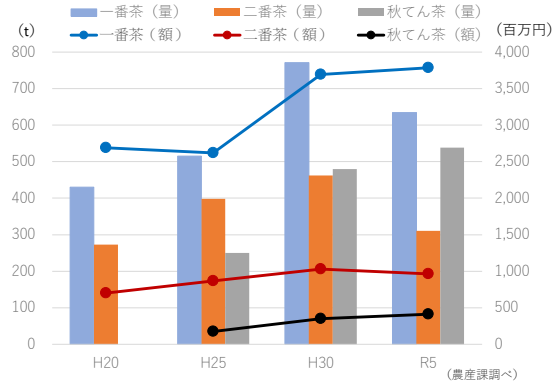
生産4 てん茶生産量及び生産金額

他府県とのてん茶生産量比較



- 全国のてん茶の生産量は年々増加しており、加工用のてん茶が大幅に増加

京都府における茶期別てん茶生産量、金額



- 府内でも安価な加工用の秋てん茶の生産が急増しているが、単価が安いために生産金額は微増

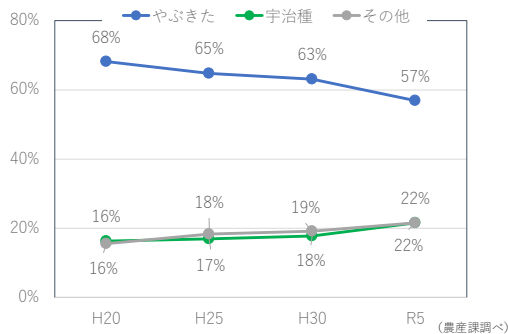


急増している他産地のてん茶との差別化（改植等）が必要

R3～宇治種改植加速化支援事業等で取組中

生産5 品種構成

京都府茶園における品種構成

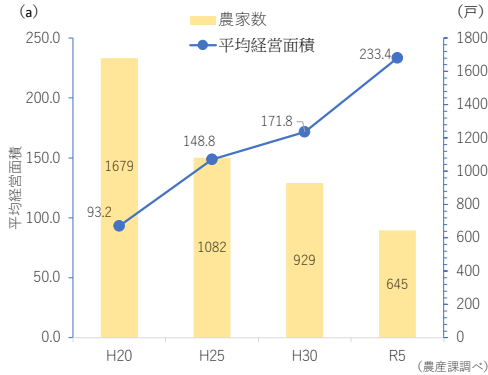


※宇治種：うじみどり、きょうみどり、さみどり、あさひ、うじばかり、おぐらみどり、ごこう、こまかげ、鳳春、展若

- 特にてん茶や玉露などにおいて、‘やぶきた’の需要低下に伴い、宇治種などへの改植が進んでいる

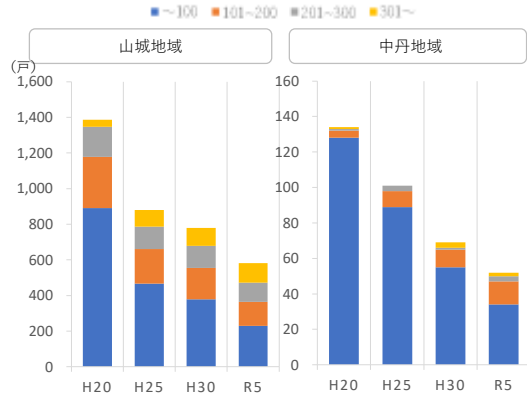
生産6 農家数と経営面積（京都府）

農家数と平均経営面積



- 農家数は15年前の約1/3に減少。
- 農家数の減少に合わせて1戸あたりの平均経営面積が増加し、R5年は2.3haと15年前の2倍以上に増加している。

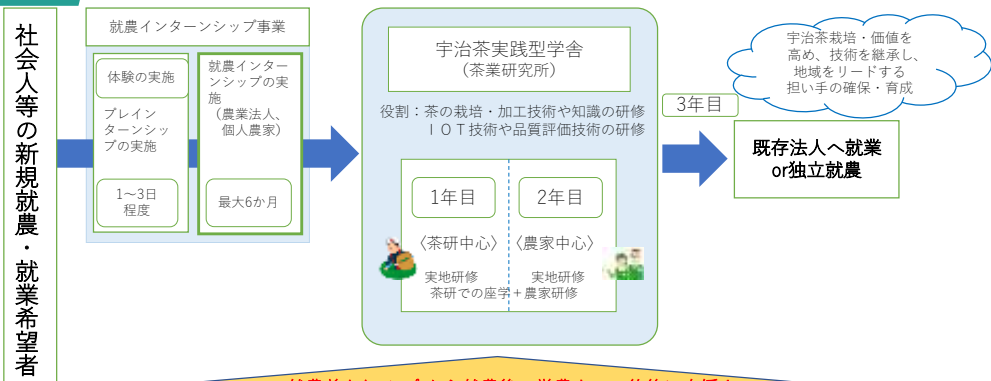
経営面積別農家戸数



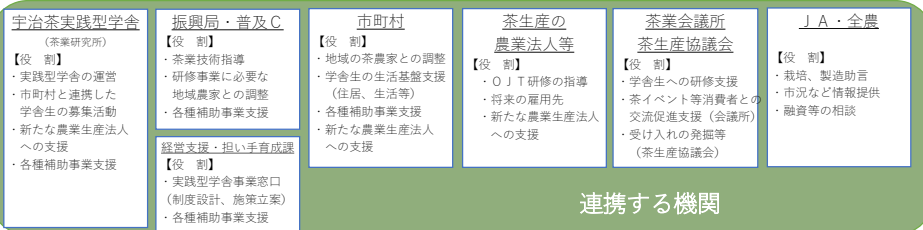
- 1 ha以下の経営面積農家が減少し、3ha以上の経営規模農家が增加。

▶▶ 経営規模拡大には限界があり、荒廃茶園の増加の危険性がある

生産10 宇治茶実践型学舎（R元～）



就農前インターンシップから就農後の営農まで一体的に支援!



ブランド1 国内消費動向

① 世帯当たりのリーフ茶消費量の推移



② 世帯当たりのリーフ茶・茶飲料の年間支出額



- 緑茶（リーフ茶）の消費量は年々減少している。

- 1世帯当たりの年間支出金額は、リーフ茶では減少傾向である一方、茶飲料では増加している。



リーフ茶需要拡大に向けた取り組みが必要

↓
宇治茶ブランド新展開プロジェクト事業で取組中

ブランド3 宇治茶ブランド新展開プロジェクト事業

- プレミアム宇治茶認証制度



- 「手摘み玉露」「玉露」等について、審査会により一定基準以上と認められた京都府産宇治茶を「プレミアム宇治茶」として認証（H31～）

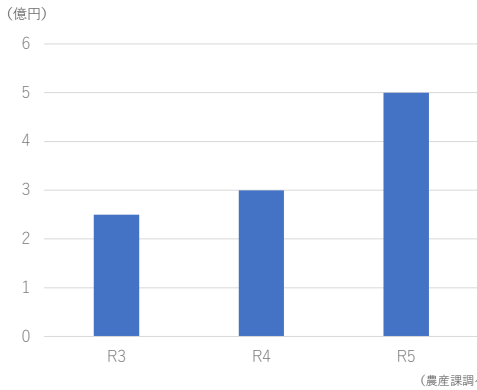
- 京都宇治玉露「玉兎」



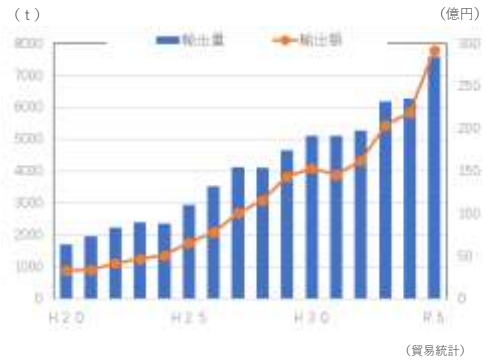
- 新たな飲み方提案として、料亭やホテル等で手軽に飲める、京都府産宇治玉露を使用した瓶入り飲料「玉兎」を茶業団体とともに開発（R2）

ブランド4 輸出対応

京都府における輸出実績（宇治茶部会） ＜北米・EU向け「宇治茶」輸出実績＞



国内の緑茶輸出実績



国内の輸出額は大幅に伸びており、府内でも年々増加している

▶▶ 輸出向け茶生産に向けた技術的な支援と需要に対応する取組が必要

↓
GFP関連事業で取組中

ブランド5 GFP関連事業を活用した輸出対応の取り組み



輸出実証試験（審査風景）



貿易実務講座の開催



混載試験の実施



海外展示会出展支援

ブランド6 茶業研究所での研究実施



生育等予測マッピングシステムの開発

スマート技術



生葉の繊維含有量を測定する機器の開発



煎茶ドリッパーの開発



気候変動に対応した技術研究

ブランド7 茶業研究所での研究実施



宇治茶機能性コンソーシアム*による機能性研究

注目されるお茶の健康機能性

主な機能性成分	主な効果
カテキン類(水溶性)	がん予防、食中毒予防等
テアニン (水溶性)	リラックス、血圧上昇抑制等
ビタミンC(水溶性)	ストレス解消、風邪の予防等
ビタミンE(不溶性)	老化抑制等
ポリアミン (難溶性)	アンチエイジング

※宇治茶の特徴 (特に、抹茶、玉露について)

- 玉露、抹茶は、**テアニン (旨味成分) を多く含んでいる** (特に高級なものほど多い)。
- 抹茶は、水溶性のカテキンやテアニンだけでなく、**不溶性のビタミンE等を丸ごと摂取**できる。

※京都府茶業研究所、(公社)京都府茶業会議所、京都府立医科大学、京都工芸繊維大学、京都府立大学等が参画し、高品質な抹茶の機能性に関する研究や情報発信により、宇治茶の消費拡大を推進

文化1 「宇治茶の文化的景観」世界文化遺産登録の取組



地域フォーラム



宇治茶文化講座



宇治茶LOVE茶会



世界文化遺産構成資産候補の保護活動
(調査研究会議チームによる現地調査)

文化2 宇治茶の郷づくり協議会の取組



宇治茶ムリエ・キッズ茶ムリエの取組



宇治茶カフェの認定

京都府茶業の課題と対応施策について

項目	現 状	課 題	現時点での京都府の対応施策	残された課題	論 点
生産対策	<ul style="list-style-type: none"> ○ 煎茶の生産量・金額が減少 ○ 全国的にはさみ摘みてん茶の生産（移行）が増加 ○ 単価の高い宇治品種への改植が進む 	急増している他産地の中級品のでん茶との差別化が必要	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「茶業振興対策事業」（S55～）や「宇治種改植加速化支援事業」（R3～）による宇治種への改植支援 ○ 「茶業振興対策事業」による被覆棚整備支援 ○ 茶業研究所における高級抹茶の優位性を示すための機能性研究(R2～) 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 改植や被覆棚整備支援は継続実施 ○ 他産地との差別化のため、<u>手摘み茶などの高品質茶生産支援や多様な茶種生産の維持に向けた取組をさらに実施する必要がある</u> 	<p style="text-align: center;">論点1</p> <p>高級茶産地を維持し、さらに発展させるための取組は</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 茶農家数の減少 ○ 平均経営面積の増加 	一戸あたり生産規模が拡大し、荒廃茶園の増加の危険性がある	○ 茶業研究所におけるスマート技術実証研究（生育予測等マッピングシステム、リモートセンシング等）	<p>経営規模拡大には限界があり、<u>高級茶産地を維持するためには、茶の担い手確保と育成の仕組みが引き続き必要</u></p>	
	○ 茶農家数の減少・高齢化	産地の維持とブランド維持のためにも、新たな茶の担い手確保が必要	<ul style="list-style-type: none"> ○ 茶業研究所の研修生制度、農業大学校 ○ 担い手養成実践農場 ○ 宇治茶実践型学舎（R元～） ※担い手確保施策については、別途、農林水産業人材確保・育成戦略検討会でも検討中 		
ブランド対策	○ リーフ茶消費量の減少・緑茶飲料の増加	リーフ茶需要拡大に向けた取組が必要	<ul style="list-style-type: none"> ○ 煎茶ドリッパーの開発（R3） ○ プレミアム宇治茶認証制度（H31～） ○ 宇治茶伝道師（H24～） ○ 宇治茶の郷づくり協議会事業（宇治茶ムリエ、キッズ茶ムリエ、宇治茶カフェ等）（H18～） 	<p>宇治茶ブランドをさらに高めるため、<u>玉露（リーフ茶）の消費拡大や手摘み茶を守っていくための取組、商品開発や輸出対応技術支援が必要</u></p>	<p style="text-align: center;">論点2</p> <p>宇治茶ブランドの価値をさらに高め、生産から加工、流通、消費が潤う取組は</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 手摘み人材の不足 ○ はさみ摘みへの移行 	手摘み人材確保が必要	○ 農林水産業労働力確保対策事業（R5）		
	○ 玉露の単価の低下	手摘み玉露、玉露の需要拡大	<ul style="list-style-type: none"> ○ プレミアム宇治茶認証制度にて「手摘み玉露」を認証（H31～） ○ 瓶入り宇治玉露「玉兎」の開発（R2）と宇治茶ブランド新展開プロジェクト事業による展示会出展などの販売促進支援 		
	○ 全国的な輸出量の増加、需要の高まり	輸出向け茶の技術的な支援と対応する取組が必要	国庫「G F P 関連事業」活用により、輸出対応産地育成、生産・加工・流通体制の構築等の取組実施（R3～）		
策文化対	京都府宇治茶普及促進条例が施行（H31）	宇治茶の文化的景観の世界文化遺産登録への取組が必要	「宇治茶世界文化遺産登録推進戦略事業」により、地域の機運醸成運動、歴史的史料分析等を実施	文化振興や普及促進のための継続した取組が必要	

論点 1 高級茶産地を維持し、更に発展させるための取組は

視点1：宇治茶の特性である高品質と茶種の多様性の維持（宇治茶ブランドの維持）

①てん茶や輸出対応茶の生産増加対策と他茶種（煎茶、玉露等）の生産維持対策

②生産施設・資材の整備、各茶種の生産技術の高位平準化対策（スマート化など）

視点2：高級茶産地の維持に向けた担い手・雇用の確保（人材育成の強化）

①高度な技術、経営力を持つ担い手の確保・育成対策

②高級てん茶・玉露の安定生産のための手摘み人材の確保対策

論点 **2** 宇治茶ブランドの価値を更に高め、生産から加工、流通、消費が潤う取組は

視点1：新たな消費者ニーズに対応する商品開発について（新たな価値の創造）

①高級茶（リーフ茶）の需要拡大、新商品開発（健康、機能性、文化、体験等の視点）

②輸出対策（GAP、HACCP、有機・減農薬、国際認証など）

視点2：宇治茶の文化振興、普及促進について

①宇治茶の郷づくり事業（茶育等）や世界文化遺産登録に向けた取組の発展

②宇治茶が関わる有形・無形の資産を活用した振興策（観光との連携等）